



地球温暖化問題に関する閣僚委員会 副大臣級検討チームのヒアリング



2010.02.23

枝廣 淳子

ここしばらく取り組みが足踏み状態？

条件付き25%削減目標

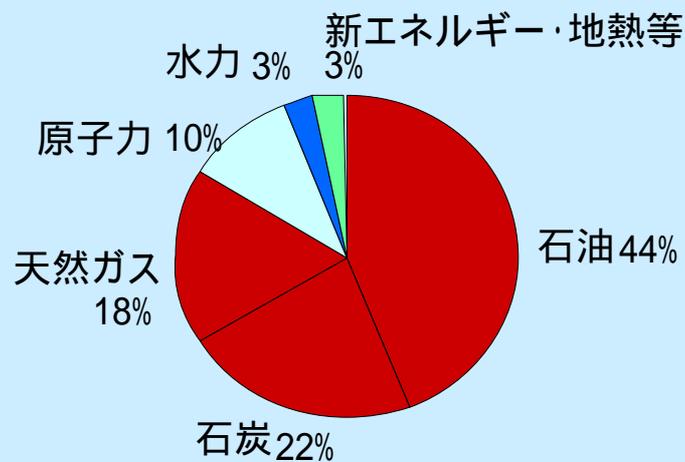
- すべての主要国が条件を満たすまで、動けない？
- 他に関係なくやる部分と、条件が満たされたら追加する部分を分けて、他がどうであっても粛々と進められるようにすべき

基本法、中長期ロードマップ案

- 2020年は通過点。2050年に80%削減できる社会づくりが大事
- 温暖化だけが問題ではない。温暖化対策を通じて、他の問題も同時に対処すべき
 - エネルギー問題(ピークオイル)
 - 日本の森林と水が外資に狙われている
 - 高齢化、買い物難民 など

参考

日本の一次エネルギー

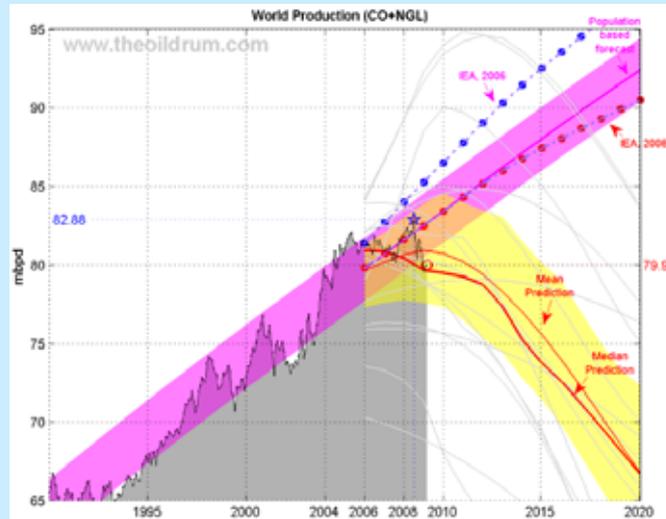


1次エネルギー国内供給(2007年度)

資料:2009年エネルギー白書 4
資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」

参考

ピークオイル:2012～2014年にも？



<http://www.theoil Drum.com/tag/update>

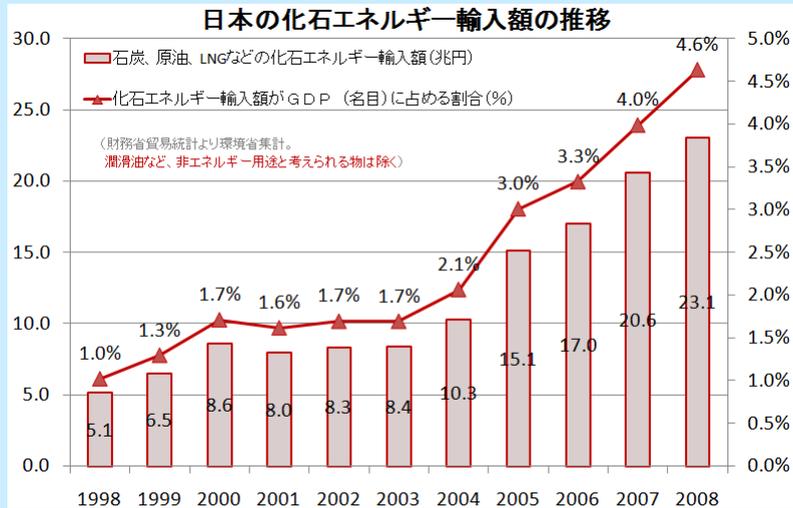
参考

IEA (国際エネルギー機関) 2009年 8月

「世界の埋蔵量の4分の3を占める800の油田を調べたところ、**主要な油田のほとんどでは、すでに産油量がピークを過ぎており、世界全体の産油量も10年以内にはピークに達するだろう**」

「2007年に、産油量の減少率は年3.7%と予測していたが、実際は年6.7%で、前の予測は間違っていた」

参考



国立環境研究所が財務省貿易統計より作成

適応策は？

- いまCO2排出を止めても、温暖化は進む
- 緩和策(CO2削減)だけでなく、否応なく進行してしまう温暖化への「備え」をする必要
(国民や企業等の意識はまだ低い)
- 国としての適応策の打ち出し、具現化
- アジアなど国際的にも重要な分野に

ロードマップ:ビジョンとは

- 「ビジョンとは、海から昇ってくる太陽」
そのココロは？ 業界や立場に関係なく、だれもが「ワガコト」と思えるか？
- 偏り・抜け
例: 農林水産業からのCO2(排出源・吸収源)
産業部門: モーター効率化や排熱利用など
- 肝心の部分を重点分野と認識しているか？
「2007年度の日本の温室効果ガス排出量の半分は、166事業所から排出されている」

旧発想からの脱却

旧発想: 個別製品の普及をめざす

求められる発想: 個別製品や人、社会インフラ、制度などの組み合わせからなる社会システムとして、低炭素化へ

例: ゼロエミッション自動車 公共交通や自転車、カーシェアリングなどを組み合わせたモーダルシフト
歩いて暮らせるまちづくり(商店街の活性化)

企業の取り組みを後押しする

優れた環境やものづくりの技術・精神

- 新成長戦略「民間ベースの技術で、世界のGHGを13億トン以上削減」
企業へのクレジット化ができないか？

途上国の適応策に対しても、民間が資金と技術を出す動機づけとしてのクレジット化ができないか？

どのように取り組んでいくか

意識啓発の時代は終わった
いかに、行動変容につなげていくか

そのために必要なもの

「何をどのようにやればよいのか」具体的な取り組みに関する情報

先立つもの(資金)がネックにならない工夫
規制や制度上の障害を取り除いていくこと

企業の取り組みを支援する

新成長戦略「新しい制度設計や制度の変更、
新たな規制や規制緩和」

省庁横断の制度コンシェルジュチーム立ち上げ

企業・業界からネックを出してもらう(buy-in)
省庁横断的に解決していく

家庭の取り組みを支援する

- ESCO的な少額融資の制度(敷居を下げる)
- 国や自治体の制度について知っており、お金の面も含めてアドバイスできるコンシェルジュ

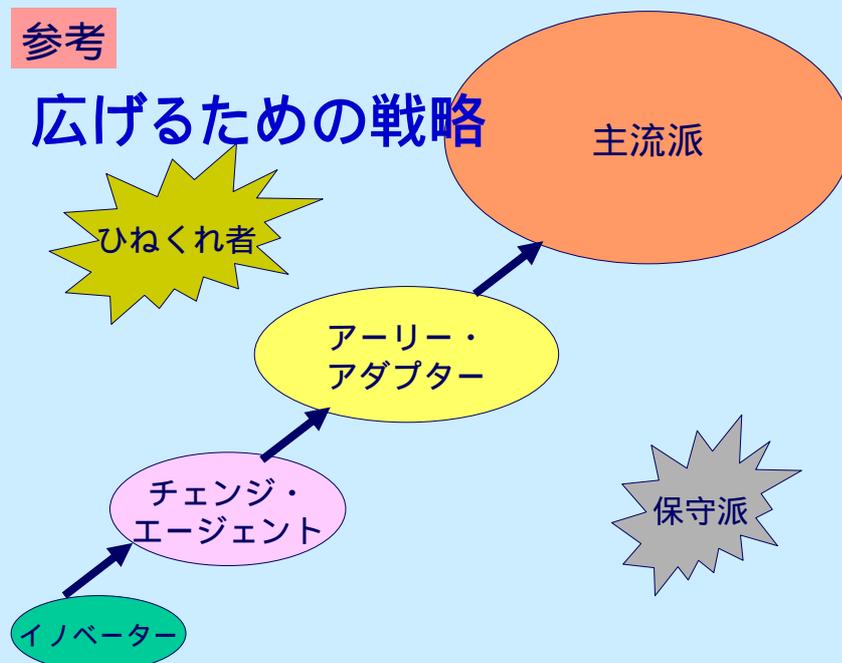
(例:スウェーデンでは国と自治体が半額ずつ出して、エネルギーアドバイザーを置いている)
- アパートでも固定買取価格制度を使いやすくする

民生部門への広げ方研究所

- いかに意識を行動変容につなげるか
- 自律的な普及やうねりを創り出すか
- 社会学、心理学、マーケティング論、コミュニケーション論
- 例: 認知不協和

参考

広げるための戦略



参考

イノベーションの普及速度を左右する5つの要因

- 相対的な利点 (の認識)
- わかりやすさ (理解しやすさ、導入しやすさ)
- 試しやすさ
- 観測しやすさ (効果の見やすさ)
- 両立しやすさ (価値観や自己の変革を要するものは受け入れにくい)

(アラン・アトキソン『カサンドラのジレンマ』より)

参考

『ギルマンの方程式』

行動の変化が起こる条件

(認知された新しい方法の価値) - (認知された古い方法の価値) > 認知された
転換コスト

転換コスト = 時間、お金、地位、不便さ、カッコなど、転換するために乗り越えねばならないマイナス

(アラン・アトキソン『カサンドラのジレンマ』より)

参考

認知的不協和理論

新たな情報 心の中に違和感(これまでのメンタルモデル
や行動パターンを覆されるのではないかという恐れ)
否認、つじつま合わせ(例:イソップの「すっぱい葡萄」)

転移(すりかえ)

「もっと悪いことをしている人がいる」

無視

「行動の結果はどうせわからない」

関与の転換

「私はリサイクルをして環境を保護している」

無力

「私が何をしても大して変わらない」

責任の否定

「私がこの問題の主な原因ではない」

快適性の追求

「自分の行動を改めるのは難しすぎる」

非難する人を非難する

「私に文句を言う資格などあなたにはない」

ねつ造された抑制

「あまりにも障害が多すぎる」

非難の拒否

「何も悪いことはしていない」

技術という白馬の騎士

「技術が進歩すればどんな事態も打開できる」

「負担か、投資か」

- エコカー、新築ソーラー:政策の成功例
- 購入者にとっては「単なる負担」ではなく、「投資」であり、産業界にとっては「需要」
- 650兆円GDPのうと50兆円を環境・エネルギーで創出 それだけの需要を創出
- 一方で、産業界のメッセージ「25%削減は家庭の負担が大きいから反対せよ」
- 需要を創出せずにどうやって経済活性化？

「コスト」「負担」をどう考えるか

- (1) 「いくらかかるか？」だけではなく
- (2) それによって削減できるコストは？
- (3) それをやらなかったときのコストは？

Junko Edahiro

21

毎度ご利用いただきありがとうございます

電気ご使用量のお知らせ

ご使用場所

21年 3月分	ご使用期間 検針月日	2月17日～ 3月15日 3月16日 (27日間)	ご契約種別	従量電灯B
ご使用量	138kWh		ご契約	40A
請求金額 (うち消費税等相当額)	3,842円 182円		当月指示数	5324
基本料金	1,092.00円		前月指示数	5186
電力量料金	2,144.40円		差引	138
・1段料金	411.48円		計器乗率(倍)	
・2段料金	194.58円		取替前計量値	
・燃料費調整額			計器番号(下3桁)	801

ご参考までに昨年 3月分は27日間の
ご使用で 178 kWhです。

燃料費調整のお知らせ (1kWhあたり)

翌月分は当月分比	-0.50円
1月～ 3月分	+1.41円
4月分	+0.91円

今月分 お支払期限日 4月15日
次回検針予定日 4月16日

お問い合わせ先/カスタマーセンター
お申し込み/契約の変更
0120-995-005
その他の電気に関するご用件
0120-995-006

東京電力株式会社
大塚支社(008)

地区番号 16
お客さま番号 68178-30406-1-00

検針員 高橋美喜子

～CO₂に関する情報は裏面をご覧ください～

きちんと説明すればわかる

2009年3月、300人の主婦を対象にアンケート調査
2030年までに現状の55倍の太陽光発電を導入できる
化石燃料の節減や太陽光発電の輸出増加などで約48兆
円のGDPと約70万人の雇用を創出
エネルギー自給率は現在の約5%から約16%まで上昇
「月260円負担しても賛成ですか？」

53%が賛成

「負担がいやだから反対」は5%のみ



ありがとうございました...

